

岡山総社 IC 流通センター



GLプロパティーズのマルチテナント型物流施設(倉庫)の完成予想図。地震や冠水への対策機能をもち、各階に大型車両が直接乗り入れ可能なランプウェイを備える

岡山総社インターチェンジ西側の長良地内に両備ホールディングス株式会社(岡山市)が開発した岡山総社 IC 流通センターに、マルチテナント型の物流施設を運営するGLプロパティーズ株式会社(東京都港区)が進出することが決まり2月3日、両社が発表しました。

両備ホールディングスが、鉄筋コンクリート地上5階建てのテナント型の物流施設(延床面積約7万9000㎡)を、平成25年2月を目途に建設し、完成後GLプロパティーズに売却。この地が高速道路の東西南北の要衝で物流拠点としての立地の良さや、岡山県エリアの物流施設の稼働状況が非常に堅調なことなどから進出が決まりました。

GLプロパティーズの三木真人代表取締役社長は、「すでに賃貸面積の39%が決まっており、総賃貸面積の3倍にも相当する問い合わせがあります」とコメントしています。

GLプロパティーズは、アジア最大級の物流施設プロバイダーのグローバル・ロジスティック・プロパティーズの日本法人。国内7都市で84棟の物流施設を運営しています。



中四国初のマルチテナント型で県内最大の物流施設 物流のGLプロパティーズも



円形の地図内の赤い部分が、売り払う市有地。オレンジ色は大黒天物産がユニチカテキスタイルから購入する土地



更地の場所がユニチカ跡地の市有地で、ここを誘致した企業2社に売り払う。写真手前側にシノブフーズが生産施設を、その右奥に大黒天物産が物流・生産施設を建設する計画。写真は複数の写真をパノラマ的に合成したもの



シノブフーズと市の立地協定の調印式で固い握手を交わす立会人で市議会の渡邊繁雄議長、片岡聡一市長、同社の上田往紀取締役管理本部長と服部憲二取締役岡山統轄本部長(写真左から)。上田取締役は、「交通の便が良く、広くすばらしい土地に巡り会えた。現岡山工場の1.5倍の生産規模をと考え、中・四国の販路をさらに拡大したい」と展望を話した

シノブフーズは市役所で2月14日、市と立地協定を締結。中国・四国地域の販路拡大を図るため、現岡山工場をここへ移転して生産能力の増強を図ろうと、米飯加工食品や惣菜などの生産加工施設を建設。鉄骨造平屋建て3300㎡程度を4月に着工予定で、平成25年1月の操業開始を目指します。

2社の企業誘致の成功により、合わせて約350人の新規雇用が見込まれ、地域経済の活性化と税収増も期待されます。

問い合わせ 企業誘致対策室 (☎ 8279)

企業誘致

中原地区内の市有地を売り払う

大黒天物産とシノブフーズの誘致に成功

企業誘致のため、中原地区内にある市有地を売り払う議案が2月8日、2月臨時市議会で可決。これにより、デイスカウントストアのラ・ムー、デイオなどを運営する大黒天物産株式会社(本社・倉敷市)の物流・生産施設と、米飯加工食品や惣菜などの製造販売をするシノブフーズ株式会社(本社・大阪市)の生産施設が立地します。

食品関係の大黒天物産株式会社とシノブフーズ株式会社の2社が進出を決めた市有地は、中原地区内のユニチカ跡地にある約2万741㎡の土地です。

大黒天物産は市有地の西側部分約1万1980㎡、シノブフーズは東側部分約8761㎡で、売却額は両社合わせて約3億5102万円です。売却額はシノブフーズからの土地売却代金は今年度中に市に入ることから、2月臨時議会では一般会計補正予算

も審議され、市の貯金である財政調整基金に積み立てることも決まりました。

大黒天物産は、市有地に隣接するユニチカテキスタイル株式会社の土地約6万1336㎡も取得。合わせて約7万3316㎡の土地に、鉄骨造平屋建て2万6740㎡程度の物流・生産施設を10月に着工する予定。加工食品と生鮮食品の生産、物流の拠点として平成25年4月の操業開始を目指します。